

【巻頭言】

学会誌編集委員会委員長に就任して

岸野文郎

副会長（学会誌担当）



このたび、廣瀬先生の後を受けて、学会誌編集委員会の委員長に就任いたしました。基本的には年間4回の発行体制を確立されました前任者の方針を踏襲したいと考えております。

当初、学会誌がスタートした時点では、ニュースレターの総集編的性格でしたが、特集、研究室紹介、商品紹介、書評など次々と読者の方に興味を持たれ、かつ役立つ企画が考えてこられました。特集としてその時々面白いものが企画されており、前号は「デジタルアーカイブとVR」、本号は「福祉とVR」、次号は「心理学とVR」の予定です。この方針は今後とも続けたく思っており、どのような企画が掲載されるか楽しみにしててください。

このような企画は編集委員会で検討しており、幹事として引き続き小木さん（三菱総合研究所）と、新任の北村さん（大阪大学）の強力なお二人に助けていただけるので心強い限りです。学会事務局もしっかりされていますので、大船に乗った気持ちです。早速、編集委員会を開催していますが、次々と特集のアイデアが生まれ、更には連載モノとしてVRシステムを作るためのコンポー

ネント情報、ノウハウの伝授、などの提案も出されています。連載を組んでいただき、それらを纏めて学会から本を出してはどうかなど（最初は出版会社に手伝ってもらうことになるでしょうが）、夢がどんどん広がります。

バーチャルリアリティ技術は、要素技術としてコンピュータグラフィックス、コンピュータビジョン、センサー、シミュレーション、知識処理、など多くのものを含み、また応用範囲も製造、設計、医療、行政、教育、エンターテインメント、ショッピング、など広範です。バーチャルリアリティに興味を持たれる方は会員の周囲にもたくさんおられると思います。そのような方にも興味をお持ちいただくような面白い読みものとなることも目指したいと思っています。あわよくば、会員増につながればと目論んでいます。

こんな特集、記事が面白いのではないかというようなご意見がございましたら、是非、近くの編集委員、あるいは学会事務局までご連絡ください。学会誌は会員皆様のためにありますので、積極的にご利用ください。

【略歴】

岸野文郎（KISHINO Fumio）

大阪大学 大学院情報科学研究科 教授

1971年名古屋工業大学大学院電子工学専攻修士課程修了。同年、日本電信電話公社（現NTT）電気通信研究所入所。同ヒューマンインタフェース研究所を経て、1989年ATR通信システム研究所知能処理研究室室長。1996年大阪大学大学院工学研究科教授。2002年より現職。専門は情報工学、インタフェース工学。著書『情報の可視化』（岩波講座「マルチメディア情報学」第6巻）、他。